

平成 22 年 4 月 22 日

日本公認会計士協会 御中

全 国 銀 行 協 会

「銀行等金融機関における金融商品の状況の開示の監査に関する実務指針」  
(公開草案) に対する意見について

今般、標記公開草案に対する意見を下記のとおり取りまとめましたので、何卒ご高配を賜りますようお願い申し上げます。

## 記

### 1. 全般

大手金融機関は、自己資本比率規制に係る第三柱など市場リスクについては十分な定量的情報を開示しており、今回の金融商品の状況の開示項目については、既に、開示している定量的情報との整合性を十分に確認願いたい。

銀行等金融機関は、自身の戦略目標、業務の規模・特性およびリスク・プロファイルに照らして適切と判断する水準でリスク管理態勢を整備している。また、整備状況については、監督当局による検証を受けながら、必要に応じて見直しを行っている。こうしたなか、監査の実施に当っては、この点にご留意いただき、例えば、金融機関における追加的・重複的負担がいたずらに増えたり、二重基準による管理を余儀なくされる事態が生じることのないようご配慮いただきたい。

### 2. 第6項

「内部で定めているリスク限度枠に近い水準・・・自己資本比率が基準値と比較してほとんど余裕が無い場合には、・・・開示の妥当性に留意する」とある。

・VaR 等の市場リスクに係る定量的分析は、あくまでも内部管理上使用しているものであり、限度枠に対する使用状況により、虚偽表示のリスクが高まるとは考えられない。また、自己資本比率においても市場リスクの対象となる

のはトレーディング勘定のみであり、自己資本比率に与える影響は極めて軽微であることを踏まえると、自己資本比率の状況が市場リスクの虚偽表示につながるとは考えづらい。これらの理由により、項目6 小段落2については、削除願いたい。

・リスク限度額の水準は、規制当局の定める基準値とは異なり、各金融機関が、経営戦略上のリスクテイク（コントロール）の目安、あるいは金融環境の変化に関するアラーム機能として、独自の判断にもとづき設定するものであり、重要な虚偽表示のリスクを評価するうえで考慮すべき事項として特記されていることに関して違和感がある。

### 3. 第7項

なお書については、内部管理において、より定量的分析を行っている金融機関ほど開示項目が増えることになり、また、市場リスク変数ごとの分析を行っている金融機関は、開示しないことが問題になりうる。「注記することも考えられる」と修正いただきたい。

### 4. 第9項

第1文については現行の内部統制に影響を与えることのないよう修文をしていただきたい。

各金融機関が経営管理に用いているリスク管理指標、実績を公表することを明確にし、各金融機関がリスク管理の高度化等に向けた改善を過度にけん制・阻害することのないよう注意喚起をいただきたい。

また、改善手続が、内部統制上、ならびに開示の妥当性監査上に不適切な影響を及ぼさないことを確認する主旨を明示いただきたい。

記載の内容に関して、管理の高度化改善が虚偽表示のリスク評価および内部統制に及ぼしうるリスクについて、具体的な想定があるならば、例示を示していただきたい。

### 5. 第13項

「① 銀行等金融機関・・・当該申請及び承認に関する文書を閲覧する。」について、市場リスクの定量的情報は、内部管理および経営指標であり、財務諸表等の計数と比較して、使用される目的や求められる精度（リスク管理の情報は、場合によっては、概算であっても経営に迅速に報告することの方が重要であることがある。）が大きく相違するため、リスク管理システムへ入力される

データや算定プロセス等を財務諸表等と同様な目線で見られることは、リスク管理の本来の目的を阻害する可能性があることを十分に理解願いたい。

「③」について、バック・テストに使用される損益は、基本的に仮想損益であり、どの財務諸表や内部管理の損益とも整合的でないことを踏まえ、事実にもとづく確認をどのように行うか具体的な手法を示していただきたい。

バック・テストは一般的には保有期間1日のVaRと日次損益（理論または実績）を比較するものであり、記述どおりの方法による分析が困難な場合も多いと考えられることから、表現の変更について検討いただきたい。

バック・テストに用いる損益を認識する期間については、VaRを計測する際の保有期間と平仄を合わせるのが一般的である。当該期間は、計測ロジックの妥当性を評価する観点から、1日間に設定されるケースが多いと思われる、各銀行等金融機関が定める基準に応じてバック・テストを実施していれば、必ずしも事業年度中の損益を用いる必要はない。

## 6. 第15項

リスク管理は常に高度化していることから、「継続性を検討する」という表現は見直しをお願いしたい。

以 上